

## 会 議 記 録

会議名称	第4回 杉並区基本構想審議会「第4部会」
日 時	令和2年12月15日（火）午後5時59分～午後7時38分
場 所	中棟5階 第3・第4委員会室
出席者	委員 奥、江崎、石橋、石元、小山、脇坂 区側 情報・行革担当部長、政策経営部長、情報政策課長、企画課長、 行政管理担当課長、財政課長、施設再編・整備担当課長、地域課長、 人事課長、
配付資料	○第4部会資料 資料28 様式2-1 まとめシート第4部会「行財政運営」《当日席上配付》 資料29 様式2-2 まとめ補助シート第4部会「行財政運営」《当日席上配付》 資料30 様式2-1 まとめシート第4部会「ICT（情報通信技術）」《当日席上配付》 資料31 様式2-2 まとめ補助シート第4部会「ICT（情報通信技術）」《当日席上配付》 資料32 様式2-2 まとめシート第4部会「協働」《当日席上配付》 資料33 様式2-2 まとめ補助シート第4部会「協働」《当日席上配付》
会議次第	1 開会 2 第3回会議の振り返り 3 議事 部会審議の総括 4 閉会
傍聴者	1名
会議の結果	各個別テーマの審議状況を整理したまとめシート等に基づき、委員間の討議を行った。

○部会長 それでは、定刻少し前ですけれども、皆様おそろいですので、杉並区基本構想審議会第4部会の第4回の審議を開始いたします。

本部会は6名の委員で構成されておりまして、本日、全員ご出席でございます。委員全員ご出席、過半数を超えておりますので、本会が有効に成立していることをご報告申し上げます。

本日、今のところ、傍聴希望の方はいらしていないと伺っております。

それでは、前回同様に議事に入ります前に、本日使用する資料を、まず事務局から確認していただきまして、今日の会議の進め方についても、あらかじめ皆さんと共有したいと思います。

では、事務局からご説明をお願いいたします。

○企画課長 それでは、本日の資料と議事内容について、企画課長からご説明をさせていただきます。まず、資料につきまして、当日席上配付という形になってしまいまして、大変申し訳ございません。最終回ということでもございましたので、できれば事前にとということでしたけれども、大変申し訳ございません。深くおわび申し上げます。

それでは、本日の資料でございますが、お手元、次第のあとで3セット準備をしております。A4の様式の2-1まとめシート、様式2-2、まとめ補助シートをそれぞれ、これまでご議論いただきました行財政運営、ICT、前回の協働、それぞれ2枚ずつのセットということで、準備してございます。

まず、この様式2-2というシート、それから2-1のまとめシートの関係でございますが、2-2のまとめ補助シートに関しましては、委員の皆様から出していただきましたご意見を、ほぼ網羅的に記載をさせていただいたのが、まとめの補助シートでございます。

これは、ICT、行財政運営については、既にお示しをさせていただいているものでして、協働の2-2のまとめ補助シートにつきましては、本日初めてご覧いただく資料でございます。

部会のミッションということで、最終的には様式の2-1まとめシート、A4のものにまとめていくということでご案内を申し上げておりました。今回、行財政運営、ICT、協働、それぞれ2-1のシートにまとめをさせていただきました。事務局で、たたき台をお示しさせていただいているということで、ご理解ください。内容につきましては、2-2のまとめ補助シートに記載した内容を、内容が似通っているものについてはまとめる。また、話し言葉で書かれているようなものについては、書き言葉に改めるなどの所要の修正を施

しまして、お示ししているものでございます。本日は、この2-1のまとめシートを中心に  
ご議論いただきまして、この次のプロセスになってまいります、調整部会、答申の起草に  
向けての作業を行う調整部会には、この2-1のまとめシートを中心に、第4部会のまとめ  
として提出をさせていただこうと思っております。

まとめの補助シートからまとめシートにまとめる際に、行財政運営のところで補助シー  
トに書いていたものをICTに移したり、あるいは逆に、行財政運営のところからICT  
のほうに移したり、それぞれのテーマでかなり横断的な議論をいただきましたので、そう  
いったことも適宜やらせていただきまとめてございますので、ご理解いただければと思  
います。

本日の議事の進行でございますけれども、まず最初に次第の2として前回同様、第3回の  
協働の振り返りをさせていただきます。その後、本日の議事である部会審議の総括とい  
うことで、これまでの三つのテーマを俯瞰して確認をいただき、補足すべき意見、また今  
後、部会としてまとめをするに当たっての留意すべき点などがございましたら、ご意見を  
いただいて、本日、この2-1について、大まかにまとめをしていただく、そんな作業を今  
日の時間に充てていただけたらと思っております。

今日の資料説明、議事の進め方については、以上でございます。

○部会長 ありがとうございます。

それでは、まず本日の会議終了予定時刻ですけれども、いつもと同様に8時を目途とさ  
せていただきたいと思います。最後の部会審議となりますけれども、これまで同様に活発  
なご意見を頂戴できればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。また、委  
員からご質問があった場合の、事務局からの回答につきましても、簡潔にお願いできれば  
と思っております。

では、次第に沿って進行してまいります。

まず最初に、前回の振り返りということですが、前回の審議内容を、協働の部分  
につきまして、事務局で様式2-2に落としていただいております。今日は2-1と2-2、両  
方準備されておりますけれども、まず、前回のポイントを事務局から簡潔にご説明いた  
だけますでしょうか。お願いします。

○企画課長 それでは資料33になりますが、前回の協働についてのご意見について、簡潔  
にご説明申し上げます。

A欄の現基本構想の進捗の検証・評価に関しましては、協働について、この20年来取り

組んできているけれども、何を解決するのか明確化されていないような印象がある。また、イメージ先行で取り組んできたということは、これは杉並区だけではなく全国的にもあったのかなというようにご意見を頂戴しています。原則のようなものは、ガイドライン等であらわれておりますが、十分機能していないという点があるのではないかと。また、協働の必要性について、行政の職員が十分にそのことを理解して浸透しているかどうかといったご意見もいただいております。

また、コミュニティ、ネットワークのところにつきましては、これまでの既存の団体、また地域のボランティアに頼っているという状況が、これ以降もそういった状況でいいかどうかといったご意見もいただいております。また、協定という手法を使っているが、ネットワークを狭めないような工夫が必要ではないかと。また、区の協働を担う行政組織とプレーヤーの間には距離があるのではないかとのご意見も頂戴したところです。

また、地域の課題解決といった観点では、区の様々な部署と協働の相手側は、調整に手間取っている状況がある。また、協働については手間がかかるけれども、区の職員が、早いからといって自分たちだけでやってしまうということのないようにというご意見もいただいております。

その他、今後の社会環境や変化等の新たな視点についても、いただいたご意見をまとめてございます。

また、B欄については、今後の協働のあり方ということで、大きなあり方、目標についてご議論いただいた内容を、3点ほどにまとめております。

B欄、協働の原則に基づき、目的を明確化した上で、杉並ならではの協働を推進していくことが必要ではないかと。また、これまで前提としてきた主体や仕組みにとらわれず、視野を広げ、多様なプレーヤーとネットワークを構築することが必要ではないかと。スピード感や戦略性を持った取組により、新たな社会資源を創造し、課題解決を図っていくことが必要ではないかというようにまとめさせていただきました。

その他、その下に四角く箇条書になっております内容は、それ以外にもポイントとなるご意見として挙げていただいたものということで、記載をしております。

右側の資料につきましては、こうした今後のあり方を踏まえて、その取組の方向性ということで、協働の全体像、またコミュニティ、ネットワーク、さらに地域の課題解決といった観点でまとめをさせていただき、その右側の、具体的な手段・方法、取組は、さらにそれをブレイクダウンして、より具体的な取組項目でいただいたご意見を記載してござい

ます。

この2-2につきましては、このほかのICT、行財政運営についても同じでございますが、事務局で、ここについてはかなり集中的に複数のご意見が出た、あるいは特に重要なお意見だったという認識のものについては、下線をつけさせていただいております。

この下線をつけた内容、それから振り返りとして欠けているような内容があるかどうかについて、ご確認をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

資料33の説明は以上でございます。

○部会長 ありがとうございます。

様式2-2のA欄、B欄、C欄ごとに審議内容を簡潔に事務局のほうでまとめてくださっております。テーマであった協働について、項目ごとにグループ化して整理をさせていただいております。

本日はこの後、第1回から第3回、3回にわたっての審議の総括を行っていくということになりますので、前回の協働についての様式2-2についてのご意見も含めて、後ほど皆様からご意見を頂戴できればと思います。その時間も設けさせていただきます。

現時点で何か、この協働、前回の議論のまとめ補助シートですね。こちらについてご意見はございますか。当日に資料が送られてきたところですので、十分に目を通していただく時間もなかったかと思っておりますけれども、今のところで、何かお気づきの点がありましたら。大丈夫でしょうか。後ほどまた時間を、また三つのテーマごとに設けさせていただきますので。それでは後ほど、またご意見があれば頂戴できればと思います。

よろしければ、先に進ませていただきます。

本日の審議内容は、部会審議の総括ということですね。配付資料について、また改めて事務局から説明をいただくということですね。使用する資料は、第4部会-資料28から資料33までということになります。では、事務局から簡潔にご説明をお願いします。

○企画課長 それでは、資料28から33まで説明いたします。3回の議論を簡単に振り返りながら、思い出していただきながら、簡潔にご説明をさせていただきます。

まず、行財政運営につきましては、資料28、29に記載をしております。現基本構想の進捗検証・評価、また新たな視点、またB欄、C欄、行財政運営については既にお示しをさせていただいているものでございます。それぞれ、全体的なご意見、また財政に関するご意見、さらに区の組織・人事に関するご意見、また連携・協働といった視点に関するご意見、また情報発信ということについてのご意見も頂戴し、さらにデジタル環境、あるいは

ICT環境といったことに関してもご意見を頂戴したのが、行財政運営の回ございました。それを資料28、様式2-1のまとめシートにまとめさせていただいております。

先ほど申し上げましたように、適宜表現などについては修正をさせていただいた部分もございます。書き言葉と申しますか、起草も少し念頭に置きながら、言葉の表現等については、趣旨は可能な限りいただいたご意見を踏まえた上で、表現等については修正をしているということでご了解いただければと思います。

また、B欄、今後の行財政運営のあり方ということで申し上げますと、今後、行財政運営は、「時代やニーズの変化に弾力的に対応できる行財政基盤を構築するため、持続的な「稼ぐ力」の強化と外部人材の大胆な活用により、行財政運営の構造改革を進めていく」ということで、あり方をまとめさせていただきました。その設定に至った考え方などについては、下に記載をさせていただきました。

また、右側の基本的な取組の方向性、また、具体的な手段・方法、取組などに関しましても、いただいたご意見、2-2のまとめ補助シートから適宜まとめるもの、また、表現を工夫するものなどについて、事務局でたたき台ということでお示しをしているものでございます。それぞれお出しいただいた意見と、少しニュアンスが違うのではないかと、あるいは表現の方法についてこうしたほうがいいのか、また、この視点は入れていったほうがいいのかといったことを、後ほどテーマ別にご議論いただければと思っております。

同様に、ICTについては、資料の30、31でございます。

資料31のまとめ補助シート、これはやはり既に前回、協働の議論をするときに振り返りをしていただいておりますけれども、ICTについては、ICTの環境整備の観点、また、情報リテラシーという観点、人材確保、また、区民や民間事業者との連携、さらには広報というような観点からも、ICTについてご議論いただいたところでございます。

それを基に2-1のまとめシートにおきましては、今後のICTのあり方、B欄ということで3点ほど掲げさせていただきましたが、ICT活用の目的を明確に掲げた上で、行政のデジタル化を一層加速するということ。また、区が区民や民間事業者とともに考え、手を携えながらICT活用を推進するということ。さらに、誰一人取り残さないICT環境を整備するとともに、ユーザー側の多様性に配慮した運用を行うということが、あり方としてまとめさせていただいた内容ということになります。

その他、基本的な取組の方向性、具体的な手段・方法、取組などにつきましては、先ほ

どの行財政運営と同様の考え方で、まとめをしておりますので、ご確認をいただければと存じます。

最後に、協働につきましては、先ほど申し上げた、まとめ補助シートをご説明いたしましたが、それを基に、これも事務局でたたき台ということで、案をつくらせていただいております。協働のあり方につきましては、協働全体のこと、それからコミュニティ、ネットワーク、さらに地域の課題解決といった観点で、ご意見を頂戴いたしました。それを踏まえまして、今後の協働のあり方、B欄では、3点、協働の原則に基づき、地域で解決すべき課題を明確化・共有化した上で、杉並ならではの官民連携に基づく協働の取組を推進していくということ。また、これまで前提としてきた協働の仕組みにとらわれず、地域の多様な主体と実効性のあるネットワークを構築していくということ。そして、スピード感や戦略性を持った協働の仕組みを実装する、そして新たな社会資源の創造や地域の課題解決を図っていくということ、協働のあり方としてまとめをしております。

その他、C欄につきましては、先ほどと同様で、まとめを事務局のたたき台としてお示ししておりますので、こちらについても表現方法のみならず、まとめの仕方、あるいは言い足りなかったこと、漏らしていることなどについて、後ほどご議論いただければと存じます。よろしくお願いを申し上げたいと思います。簡単ではございますけれども、このシートについての説明は以上でございます。

○部会長 ありがとうございます。

では、議論に入っていきたいと思いますが、第1回の部会審議の際にも申し上げていたかと思いますが、部会に与えられておりますミッションは、部会において出されました意見を、答申案起草の元になります、この様式2-1、まとめシート、こちらに集約させていくという、そういう作業になります。ですので、本日はこれまで頂戴しましたご意見が、適切な表現で、十分にこの様式2-1、まとめシートに表されているかどうかというところ、そこをご確認いただきまして、やはり表現を修正したほうがいいとか、もしくは追記したほうがいいといったような、そういった観点からご意見を頂戴いたしまして、この様式2-1を固めていきたいと思っております。

議論の進め方ですけれども、最初に行財政運営から始めますが、その後にICT、そして協働という順番で、それぞれ大体、目安としましては20分ぐらいを割きまして、この様式2-1について検討し、最後にまた全体調整の時間も設けられればと思いますけれども、内容を固めていきたいと思っております。よろしいでしょうか、そのような進め方でご了承いた

だければと思います。

では、まず行財政運営の様式2-1から大体20分程度、今から議論できればと思います。

十分にお目通しいただく時間がなかったかもしれませんが、どうでしょうか、見渡していただいて。

委員、お願いします。

○委員 前回の、第1回目の部会か、そのときからも少し感じていたところなので、ぜひとも、皆様のご意見をお聞きしたいなと思っていたのですが。

当時、最初の部会ということで、行財政運営だけをメインでやっていたと思うのですが、おそらく内容が、広報だったり行政運営だったりとか、いろんなご意見があったんですけども、あまり財政運営についての意見というのが、委員の皆さんからお聞かせいただけなかったのかなと、個人的には感じました。

B欄にこういう書き方をされていて、これに関してはもともとだし、それに対する異論というのは全くないのですけれども、ぜひ、まとめに入る前に、財政運営に特に専門家の方が多い中で、何かご意見があれば、一度お聞きした上で、まとめを、もう少し分厚いものにしてもらえたらいいのかなと思いますので。何か皆さんが感じるものがあったら、最初にお聞かせいただきたいなと思っています。

○部会長 行財政運営、特に財政運営のところでしょうか。そのものずばりのご意見というのが、十分に出されていなかったのではないかというご指摘ですよね。そこの部分のご意見をまず出していただいた上で、さらに補充できる部分については、補充したほうがいいというご意見ですが。

どうぞ、副部会長。

○副部会長 発言はしたと思うんですけど、「そもそも、複式簿記でちゃんとしたダッシュボードができていないですよ」という。やっていることになっているけど、それは全然機能されていないので、そうすると、経営に活用できるようなデータと、それから見える化みたいなものができていないというのは議論したと思いますけれども。書かれていないですね。

○委員 副部会長の、その発言は覚えております。

○副部会長 どこの自治体もなかなかそこが難しいところなんですけど。それは取り組んでいるし、やっているということなんだけど、それも結局、それが手段になっていて、手段が目的になっていて。目的はちゃんとした財政の解析と、それに基づいた、デイリーワ

ークと長期プランというのをちゃんとつくるという作業をやらなきゃいけないということなんですよね。

○部会長 そうですね。そこは以前にご意見いただいていたところ、確かにシートから漏れてしまっているというか、十分に表現されていないところかと思いますので、そこはつけ加えていただいて。このシートでは確かに、「稼ぐ力」というところが何度も出てきて、とにかく稼ぐんだということが強調され過ぎているかもしれませんね。そもそも、これまでやってきたところを、しっかりと財政面から整理して見える化することを出発点にした上での話なので、そこを追記していただくということをお願いいたします。

ほかはいかがですか。

どうぞ。

○副部会長 議論があまりされなかったところで、決定的に抜けているなど思ったのが、ジェンダーバランスというのが、そういえば議論しなかったですよ。

女性の、ちゃんとしたワーキングオポチュニティを提供するというのが、ここの委員も、女性は座長お一人だけなんですけれども。

よく言われるMカーブってありますよね。最初入って抜けて、もう一回、育児が終わって復帰するというMカーブに、専門職の場合は、大体Mにならずに戻れないという形になるので、女性職員をどう育成、支援するかというのは、とても大事なジェンダーになっていくんじゃないですか。やはり、そこが抜けてしまうと、女性の視点というのが入らないということになる。それをやるため、支援するために、例えばデジタル化で在宅勤務ができるようにするとか、あるいは育児支援のための施設をちゃんと整備する。これは当然、区民のためにも提供するわけですけど、職員も含めた女性支援というのは、非常に重要なところになってくると。これは国としても、2050年度までに何パーセント助成するかという数字は出すんですけど、具体的にどうするのよ、というところまでなかなか踏み込めていないので、これがたぶん必要ではないか、決定的に抜けているなど思いました。

○部会長 ありがとうございます。

そうですね。この様式2-1、資料28の組織・人事というところの最初の丸に、人材の専門性や多様性という、多様性の中に含まれるとえば含まれますけれども、ジェンダーという、むしろ女性だから女性を引き上げるとか、女性に係る、その登用を何らかの目標を持って、そこに注力していくということを強調するよりは、今の時代はむしろジェンダーにとらわれない、それこそ、その人の能力や意欲に応じた機会をしっかりと保障していく

ような、そういった仕組みが求められているんだと思うんですよね。むしろLGBTのことを考えれば、そもそも性にとられるということ自体が問題だということもありますので。ですので、ジェンダーにとられないという表現のほうが、私は適切かなと思っています。あまり、女性、女性とかというよりは。そういう意見も私は持っているもので、ちょっと副部長とは。

○副部長 それは多分、書き方はすごく注意しなきゃいけないと思うんですけど、でもやはり、日々の生活の中で、当然ながらやっぱり、各家族の中での役割の、もちろん形は変わってきているというのはありますけど、多くの場合は、まだなかなかそれができていないというのは、部長がおっしゃったとおりのお話を内閣府でもしたんですけど、やはり女性を登用するというのを書かないと、KPIに入ってくないので、数値化できないと役人はやらないんですよね。という議論で、実は入れたところがあります。

○部長 どうぞ、委員。

○委員 ここの組織・人事のところ、丸の一つ目は、ジェンダーとは関係なく、専門性や多様性で民間の人材を活用しようということなので、副部長がおっしゃるんだしたら、一つ丸をつけて、そういう大きな項目を立ててもいいんじゃないかなと思いますし。

やっぱり個人的に思うのは、人事制度を含めて、女性が出産等で休まれたときに、人事評価のハンデを負わないような仕組みをしっかりとつくり上げていくことが、本当に平等な人事評価になると思いますので、その辺を含めてご検討いただきたいなと思いますね。

○部長 どうでしょうか。「女性」というように表現するか、ジェンダーにとられずに表現するかという問題なんだろうと思うんですよね、表現の仕方として。

お願いします、委員。

○委員 これ、いろいろ考え方があると思うんですよ。これは、やはり部長のご意見、それから副部長の意見、それぞれ見る視座によって、全然その解釈が違うと思うんですけど。

一例として、ワールドスタンダードを考えた場合において、国連の場合、女性の幹部登用率というのを、検疫官に対して求めているのと同じように、IOCありますよね。これ、ちょっと話が変わりますが。インターナショナル・オリンピック・コミュニティ、IOCが、これ今、UN、要するに国連のパートナーとしての立場なんですけれども、世界女性会議等において、検疫官の女性の幹部登用率を40%にしろよという勧告を今、日常的に行っている現状とか。やはりワールドワイドで見れば、要するに当たり前のような出

来事になっている。すなわち、組織・人事という枠組みの中で捉えていけば、ジェンダーとか非常に難しい解釈もあるので、女性幹部の登用率を上げるとか、そういった文言にするとか、いろいろやり方はあると思うんです。一例として。以上です。

○部会長 杉並区はどう、具体的にその目標値の設定はどのようになっていますか。委員はありますよね。委員会での女性割合とかはあると思いますが。

どうぞ。

○人事課長 杉並区では、女性管理職、あと係長級の割合を高めていこうといった目標を持ってございまして、女性管理職につきましては、大体3割ぐらいを目指していきたいなと思ってございまして、係長級も大体50%を目指して今後取り組んでいこうと思っているところでございます。係長級については、現在、大体43%ぐらいでしょうか。近年は大幅高まっているという状況は今ございます。

管理職についても、今は23%ぐらいでございまして、まだまだこれからかなと思っています。

○部会長 分かりました。実際にそういう目標も定めて取り組んでいらっしゃる実態があるので、それを受ける形でここに落とし込んでおくというのは、もちろんそれが抜けているというのはご指摘のとおりですので。それを最終的にどのように基本構想で書くかですね、起草の段階で。そこは、また調整部会で具体的には議論することになるかもしれませんが、この部会では今、副部会長と、それから委員がおっしゃった、女性の登用、特に幹部の登用を高めていくとか、そういうことだけでいいのかということもありますけど。もう少し。

どうぞ。

○委員 女性の件ではなくて、ごめんなさい。今の人事課長の話もあった上でなんですけれども、そもそも、今、杉並区の幹部職員への、なりたいという方が少ないんですよ。課長になりたい、係長になりたいという昇進意欲がそもそも今、役所庁内で欠けているという言い方はあれですけども、目指す方がパーセンテージとして少ないという前提があるので、まず、そのところも抑えた上で、自分が区を引っ張っていくんだという思いの中で、そういうところから手をつけていくのも大事なことなのかなと。入れる入れないは別にしても、委員の皆さんには、役所って今そういう状況なんだということだけは、ご認識いただきたいなと思います。

○部会長 どうぞ、副部会長。

○副部会長 ICTとも少し関係するし、実は女性を支援するというのにも関係するんですけど、デジタル化をして在宅勤務ができるようにする、それから、勤務する時間を短くできるし、家でも仕事ができるようなフレキシビリティを持たせるというのが、ジェンダーバランスの問題にも貢献するしという話におそらくなると。

もう一つ、ICTではない、ここで行財政運営ということになると、ここでやはりやらなくてはいけないのは、さきほどの昇進するインセンティブがないのは、ブルシットジョブが多いんですね。ものすごく制度疲弊しているというのがあって、言ってみれば、無駄な印鑑とか無駄な会議とかというのが、無駄ではなかったはずなんですけど、それがある目的をやるために新しくルールがどんどん足されていってしまったというのが現状だと。

というわけで、ほかのところでもトップダウン的にはDXというのをデジタルと言わずに、制度を完全にスクラップ・アンド・ビルドするというように捉えてやりましようとなっているんです。これはデジタル化というものの読替えですけど、デジタル化によって業務を変えられると。そのときに今までの、実は不要だったものとかというのを、言ってみれば断捨離しましょうと。断捨離すると、例えば、協働をするための余分な時間が出てきますよねというロジックで組み立てましょうというのが、ちょうど今、ドラフティングされているところで、ほぼ、大体コンセンサスになったシナリオですね。

ですので、デジタル化のところで書かなくても行政のところで書くとなると、やっぱり根本的なDXという言葉がどうか分かりませんが、というのをやることによって、幹部への金銭以外のインセンティブという話も出てくるでしょうし、女性支援というの、たぶん一緒に出てくるということなんじゃないかと思いますね。

○部会長 ありがとうございます。

ほかにございますか、ここの部分について。いかがでしょう。

委員、どうぞ。

○委員 部会長もおっしゃいましたけど、稼ぐ力というのが、何か。稼ぐと稼ぐビジョン。区民が見たときに、何か少し違和感が生じないかなということがあるので、区でこの言葉の置き換えも含めて、行政で使うような言葉に置き換えるとかいうのは、少し考えていただきたいなと思います。

それと2点目は、せっかくA欄でSDGsの話が出ていますので、その話が右側の欄に全然反映をされていない。例えば、TBSは、先月ぐらいに大々的にSDGsの話をしていましたので、答申のつくり方なんでしょうけど、それぞれの課題に、Aの課題を貼りつ

けるとか、その前段として区民の方が理解できやすいような説明書きをつけて、自分たちの区の動きがここに貢献しているんだというような形の見せ方というのが必要じゃないかなと思います。

あと、副部会長が言われたような、答申をつくって新しいスキームをつくったときには、付加ばかりしてはいけないので、やはりスクラップ・アンド・ビルドで、これやめてもいいじゃないのというものは整理をしながら、区民に対するサービスレベルというのは、しっかり大きな目標というかKPIを立てて、ここはやめます、代わりにこういうこともやりますと。これをやるためにここは捨てます、というようなことも、思い切ってやられても結構ではないかなと思います。

○部会長 ありがとうございます。

ほかはいかがですか。どうぞ。

○副部会長 SDGというのが入ってきているので、SDGという言葉の、もう大分使われ始めましたけど、今、実は内閣府でも使うことにほぼなったのが、「人新世」ですかね。人の新しい世の中って書いて。これ、かなりキーワードとしても、たぶんグローバルに出てきているキーワードですけど、これを使う手はあるかもしれないですね。

今までの、成長ばかりを考えてきて、自然破壊で地球自身が壊れるということを人間がやってきたというのを、すごく長い歴史の中で反省をして、だからカーボンニュートラルにしなきゃいけないし、成長ではなくて、地球と共に生きるというレベルに持っていかなきゃいけないというのが、簡単に言うと「人新世」というキーワードですけど。これはかなり一般名詞化されてきているので、これも調整部会になるんですけど、このキーワードを使う手もあるかもしれないです。

○部会長 ありがとうございます。

SDGsをどう表していくかというのは、この部会だけではなくて全体に関わる話なので、ロゴをひもづけて見せるかとか。それは調整部会で、全体でどうするか、少し検討しないとイケませんね。

それから、先ほどの稼ぐ力とか、稼ぐという言葉、このまとめシートでも書いていますが、これをそのまま出していいのかどうかという。ちょっと違和感を覚える方も多いのではないかとご指摘ですけれども、委員、稼ぐ力というキーワードが使われましたね。

○委員 張本人です。

○部会長 お願いします、何かご意見を。

○委員 別に私は、何の罪の意識もないですね。稼ぐ力というのは、全く言って当然のことだと思っています。今までの杉並区に足りないことだと思います。

同時に、言うまでもないことですが、これは会議なので、あくまでこれはキーワードで、これから言葉を変えていくとか、区民に対して分かりやすく伝えるのは当然のことなので、それは大いに期待しています。

ジェンダーのことは、私も委員の意見に賛成です。これから調整部会なり何なりしたときに、よりブラッシュアップしていけばよろしいかなと思っています。

○部会長 ありがとうございます。

非常に分かりやすい言葉ではあるんですね、稼ぐ力。確かにそういう、そもそも意欲を持って積極的に取り組んできたかということ、それはそうではないだろうということもありますので。ですので、とりあえず、これで一応まとめシートでは出させていただいて、調整部会でどうするかということを検討するというところでよろしいでしょうか。

○副部会長 たぶん、稼ぐ力の発掘と強化みたいなことがいいかなと思うんです。そうするとスタートアップみたいな、新しい動きというのを非常に意識して。

○部会長 よろしいですか。そういう、これまであまり意識してそういうチャンスを、そもそも発掘しようとしてこなかったというところに、意識を持って取り組むべきだという、そういう、そもそもの指摘なので。今、副部会長がおっしゃってくださったような表現で入れていただいて。

それから、女性支援と昇進インセンティブをしっかりと持てるような、そういう環境の整備、環境づくりということも、このまとめシートでは確かに表現できていないので、それも落とし込んでいただいて。最終的に、女性だけでいうのか、それとももう少し広くジェンダーバランスのような、とそのような表現にするのか。そこはまた、調整部会で議論するというところにさせていただきたいと思います。

ほかはいかがですか。

どうぞ、委員。

○委員 もう一度、財政運営の話だけ、もう一言させていただきたいと思います。

ちょうど今、財政部門も新年度の予算案の策定でいろいろ査定をされていて、コロナでたぶん大きな減収になっていて、持続可能な財政運営というものを、どのように考えていくかということで、今一番大変な思いをされている時期なんじゃないかなと思います。

ただ、財政運営というものは、あくまで基本構想という大きな目的を達成するためのもの

のであって、それが主になってはいけないと思うんですけども、例えば、これから予算が、お金がないというときに、事業を削らなきゃいけないとか、そういう話だって幾らだって出てくると思うんですね。ただそういうとときに、どういう考え方で財政運営をやっていくのかということころは、もう少し見えるようにしておいていただくといいのかなと。

財政運営の基本方針というか、例えば、本当にこの事業は、もう丸々予算カットというような形も一つのやり方だと思いますし、例えば、昔の区政であったけど、事業ごとに10%ずつ削って行ってやったほうがいいのではないかとか。そういう財政運営のやり方もあると思うんですけども。

今、新年度の話を、少しくわさレベルで聞いている限りでは、かなり厳しい査定をやっている中で、この事業はもう丸々カットだなんていう話で、区民からは「本当にそうなんですか」なんていう話が、僕のところにも既に幾つか入ってきているというような現状なんです。それは本当に、お金は確かに減らして持続可能な財政運営にはつながるんだけど、現基本構想の達成に向けた財政運営ということに果たしてつながっているのかという部分は、少し疑問な部分を感じているところもあって、抽象的な表現で申し訳ないんですけども、もう少しこころの表現は、しっかり固めていただくといいのかなとは思っています。

○部会長 どこにどう表現しますかね、そういうことを。

どうぞ、委員。

○委員 委員のおっしゃることも、よく分かるんです。だからこそ、執行機関と議会は車の両輪であって、予算編成において丁々発止を行う。やはり、予算特別委員会をしっかりとやるということなんじゃないかなと思っています。おっしゃるとおりに、例えば基本構想、これから10年を杉並はつくっていく点において、行財政を考える上においては、聖域なき改革という言葉なのか、それともプライオリティをつけて予算編成をするのかという、視座によって違うと思うんですけども、出てきた案に対して、杉並区議会がしっかりと見識を示し、予算特別委員会等において、「やっぱりこれは大事なんだよ、田中区长」というような感じで意見を、中身を含む熟議といいますかね、少し前にはやった言葉で。そういった感じのほうがいいんじゃないかなと思っていますね。

ですから、先ほど委員がおっしゃったような、例えば熟議の議論じゃないですけど、行財政運営においては、やはり幅広く意見聴取を行うじゃないですけど、耳を傾けて、予算編成等を行うような文言も若干入れておけばいいんじゃないかなと思っています。

ちょっと抽象的になってすみません。以上です。

○部会長 ありがとうございます。

副部会長どうぞ。

○副部会長 そうすると、それはたぶん持続的な稼ぐ力というところにも、関係するところで、長期的にちゃんと新しい産業で税収を取っていくということが必要なもので、その力をしっかりと育成しましょうということだと思います。

それは、大企業の誘致というよりは、むしろ、目になる小さな非常に動きのいい産業を、どう育成していくかということなんですよ。そういうのがない都市は滅びるというのが、もう40年前ぐらいに書かれている有名な本がありますよね。大企業を持ってきた都市は大体死ぬと。常に小さなところがどんどん伸びて入っていくようなところじゃないと、永続できませんよと。

○部会長 そうですね。減る一方、削る一方というのではなくて、いかに夢を描くかと。

夢の部分もちゃんと表現するかということが、基本構想ではやはり重要ですので、今言っていたように、減るところは減るにしても、いかに別の方途で新しい道を模索して増やしていくかというところを一生懸命やっていく中で、必要な行政サービス、住民ニーズへの対応というものの質を落とさないように、それこそ持続的に継続的に取り組んでいくんだという、そういうビジョンを基本構想レベルでは見せるということですかね。

そういう表現をするということなのかもしれませんね。委員の今の思いを表すとしたら。

○副部会長 この事例としてちょっとご紹介した神戸市もそうだし、広島市もそうですが、民間の人を入れながら新しい取組のところを、そこでドライブかけていくと。

そのときに大企業じゃなくて、もちろん大企業もやるんだけど、ベンチャーのすごく元気のいいところと、それを進めていくという形にしていますよね。

○部会長 大体もう20分は過ぎてしまっていますが、いかがですか。大分ご意見いただいて、最終的にどう表現するかは調整部会に委ねるところもありましたけれども、このシートに追加すべき内容としては、女性支援とか、昇進のインセンティブとか、そういう話ですよ。

それと今、最後に議論しました稼ぐ力といいますか、持続的に新たな収入源というものをしっかりと確保していくような、そういうことを模索していくところですかね。

それでよろしいでしょうか。

( 了承 )

○部会長 では、これでつけ加えていただいて、あとまだ二つテーマありますけれども、最終的な確認というのはどのようにすることになりますか。調整部会にかける前の第4部会としてのコンセンサスを、どのように確認するかということなんです。

○企画課長 その点については、今日の最後のところでもご案内をと思っていたんですが、今お話しいただきましたので、事務局としては、本日いただいた議論を踏まえて、修正すべきところは修正をして、それを部会長、副部会長、それから事務局で調整の上、メール等で部会員の皆さんに共有をするという形で、部会として固めていきたいという考え方でございます。

○部会長 分かりました。

では、今日いただいたご意見、今のこの行財政運営のところについては、追加で記述をしていただいたものを、また後で皆様にも見ていただくということでよろしく願いいたします。

最後、また時間が余りましたら、戻ってきて全体を確認できればと思いますが、時間もありますので、次のICT、情報通信技術にいきたいと思います。

こちらにつきましては、資料30ですね。

いかがでしょうか。

どうぞ、副部会長。

○副部会長 まとめシートのほうには、抜けているかなと思ったのは、避難所とかの環境の整備というのがない。それ学校も含まれるので。

○部会長 補助シートには書いてありますか。

○副部会長 補助シートは使われないとすると、まとめシートに入れておいたほうがいいのか。

○企画課長 様式2-1のまとめシートに、各具体的な取組項目を全部入れるというのは、スペース上でなかなか難しいところがあると事務局としては考えていまして、これは他の部会との調整にもなるんですけれども、この2-2のまとめ補助シートの内容も、これは調整部会には具体的にこういうご意見が事業レベル、取組項目レベルでは出ましたということで、この2-2の補助シートについても、情報として調整部会に挙げていくというやり方が一つあるのかなと考えています。

起草に当たっても、2-1の内容が全て盛り込まれる、あるいは2-1に書いていないことは、答申案には盛り込まれないということでもないかなと考えていまして、ですから、できる

限り出していただいたご意見は、調整部会では目にとめていただけるような形でやるというやり方もあるのかなど。そこは、他の部会の議論の進み具合、それから他の議論の部会でどのぐらい取組項目として挙がっているかということも含めて、調整の中で判断していきたいと思っています。

今のところ、そういうような考え方で、2-1には全て落とし込めていないところはあるということは、ご理解いただければと思います。

○副部会長 全部入れろというのではなくて、やはり災害時の対応というのは、すごく重要なポイントではないかなと思うんですけども。

それと、たぶん学校の教育現場がそれを兼ねているというのは、すごく戦略的には使えるところになっています。

○委員 災害のほうで強く出てきそうな感じはしますけどね。防災分野のシートで。

○部会長 ICTという切り口で出てくるかどうかですよ。

○委員 そちらの議論はどうなっているのか。

○部会長 今の防災面の、ある意味レジリエンスの向上というような、そういう内容をまとめシートのほうに入れておくべきかどうか。

どうぞ。

○政策経営部長 当然、第一部会の危機管理、防災の分野でもこういう議論は出ると思うんですけど、それはそれで、最終的に調整部会で突き合わせればいいので、この場においては大事な視点でありますので、副部会長がおっしゃったことも盛り込ませていただきます。

○部会長 お願いいたします。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

どうぞ、委員。

○委員 下でロボットが動いているというのを区報でも見ましたし、ICTの中にAIなんか含まれるという理解をすればいいんでしょうけど、これも見せ方になってしまいますけれども、AIを含めた表現をしたほうが、向こう10年の話ですから、きっとAIが入って世の中はさま変わりする。

基本方針の中で、年度年度のところでキャッチアップをしていくんでしょうけど、AIが全く言葉が出てこないというのは、副部会長がどうかなど。どう思われますかって、専門家に聞きたいなと思います。

○部会長 お願いします。

○副部会長 AIというのが独り歩きしないように、国として、実は、Society 5.0という言い方にしています。当然に、その中で、AIというのはコンポーネントとしても普通に入ってくるので、それよりもAIを何のために使うんですかというほうが、実は難しい、重要なところになるので、Society 5.0の場合は、全ての人が幸せになるように、AIなりネット技術というのを使いましょうという建てつけにしておりますので、AI、予算を取りに行くときは入れなきゃいけないけど、たぶん入れなくてもいいんじゃないかなとは思いますがね。

むしろ、特定のAIとかというのが見えると、少し警戒される区民の方もいらっしゃるんじゃないかなという気はしますけどね。

○部会長 区民も職員も、警戒する人が出るかもしれないということですね。

○副部会長 今回もICT化とかというので、それもいいと思う人と、やっぱり取り残されちゃうというような不安もあるし、それからAIで職がなくなるというのは、ものすごく危機感を持っている人たちもいらっしゃいますので、そこは少し気をつけたほうがいいかなと思います。

○部会長 よろしいでしょうか。

どうぞ、委員。

○委員 これ、副部会長のお話の関連ですけど。やはりデジタル化は、環境によって変容をしていくというのが前提だと思うんですね。

それで、いろんな環境が変わっていく中においてデータを積み重ねていくと、これはやはりICTしなきゃいけないとか、人の手よりも、ある程度システムを使ったほうが早いとかというのは、今後10年ではものすごいスピードで出てくるような気がするんです。

なので、ある程度、言葉の意味を含めるといえるか、やはり幅広く取れるような感じで、デジタルとか、まさに委員がおっしゃったようにICTというレベルに落とし込んでおいたほうが汎用性があるのではないかなというように気がします。

以上です。

○部会長 ありがとうございます。

委員、よろしいですか。そういうご意見がありました。

ほかはいかがですか。

この資料30の右下の民間事業者等との連携・人材確保の欄ですけれども、表現の問題で

すが、二つ目の丸で、外部の専門人材を複数登用し、役割分担してチームで課題解決に当たらせるという少し上から目線の表現、これはやめたほうがいいかなと思いますので、表現を改めてください。

それでは、よろしければ次のテーマ、協働ですね。前回議論したテーマですけれども、資料の32に移らせていただきます。

いかがでしょうか。

どうぞ、お願いします。

○副部長 ICTと行財政運営とのロジックと結びつくと思うんですけど、協働のための作業を職員の方が積極的にやりましょうと書いているわけですけど、これも仕事が増えることになっちゃうので、そうするとその時間を確保してあげるということと、無駄な仕事をなくすのと、デジタル化で協働に可能な時間をひねり出すというような建てつけにするのがいいかなと。そうしないと、やはり新しい施策をやると、どんどん仕事が増えちゃって、結局身動きが取れなくなってしまうというのは本末転倒になるのではというところが入れ込めるといいかなという気がしました。

○部長 そうですね。そういうストーリーを描くという意味では、今後の協働のあり方、B欄なのかC欄なのかですけども。協働全体、C欄のところでも描けますかね。そこに描いたほうがいいかもしれませんね。協働全体のところを。

では、今のご意見を盛り込むようにお願いいたします。

ほかはいかがでしょう。

どうぞ、委員。

○委員 協働に関しては、前回かなり、いろいろと深掘りした意見が出ていて、聞いていて勉強になることが多かったと思っているんですけども、協働するパートナーとしてNPOだったり、企業だったりというのは大勢あるにしても、そもそも区民の方が協働の意識を本当に持って生活をしているのか。そういう文化レベルにいるのかという、そもそも大前提のところ考えたときに、そういう思いに至っている方というのは、前回も人材不足の話とかもありましたけれども、そういうレベルには至っていないことが多いのかなと思っています。

それは何でかという、区民の方の考え方というのは、やはり税金を払っている対価としてのサービスで行政が仕事をしてきているんだという価値観で、物事を尺度として測る方が多いように思うからだと思うんですけども。そのように考えている方が多い中で、

協働、協働という言葉を進めていくことは大事ですけれども、果たしてどのように区民に響かせていくのかというスタートラインの部分といったところが、前回の議論としてなかったのかなと思いましたので、その点は、僕自身もそういうところは区民の方にどんどん働きかけていかなければいけないと思っているんですけれども、大きなプロ的な視点でいったときに、まだまだ不十分なところで、果たして本当にこの10年で協働の目標というのがどこまでやれて、どこまで達成できるのかといったところは、最初のほうで何を解決するのか明確化されていないという話もありましたけれども、やはりその部分がもう一度不安なところになってしまうのかなと思っています。

○部会長 今の話は、現状と課題、A欄のところですね。

区民生活・意識の変化等の新たな視点というところに、そもそも区民に、協働の主体であるという意識があるかどうかというところ、それをいかに持っていただくかということも課題であるというようなことを、このA欄に書いてはということでしょうか。

どうぞ。

○副部会長 欄に書きにくいのかもかもしれない。さっきのストーリーと非常に関係すると思うんですけど、委員がおっしゃった、区民は税金を払っているのでサービスをもらうのが当然だという、ある意味、やはり「ミー」ファーストでやっている。そのおかげで、結局のところ今のSDGsの問題を解けないということになっているわけですね。

そうすると、では香取さんがよく言っている利他主義という、あげると返ってくるのでうまく回りますと。それをしないと、SDGsというのはできませんよねというのが、ほとんどのアンダースタンディングですね。自分だけよく動こうとすれば、当然先進国は発展途上国でたくさんエネルギーを使ってクリーンにするということになってしまうというのが起こるわけで、これは、やはり対称性と相互に利益を分かち合うみたいなお話が必要ですねということになるので、そういうコンセプトで協働というのを考えていますよというのを、もう一回ちゃんと言うのかなと思いますけどね。

反省点としては、たぶん、お金を稼いでくるために民間と協働をやるというのもあったんですよ。それも、ある意味財政的には正しいんだけど、サステイナブルなSDGsとしての協働ではないかもしれないですね。

○部会長 委員、マイクを握っていらっしゃいます。どうぞ。

○委員 今日、私は係長研修というのをやってきました。私が係長になるんじゃなくて、係長になる人に講習をしてきました。協働のことを教えてきたんですけど、反応は、いま

二つです。やりたいという人はあまりいなくて、面倒くさいという顔の人が多かったです。

これはしょうがないことかなとは思いますが、でも、10年後、20年後を担う係長が、ああいう顔をしているというのは、ちょっと寂しいかなと思っています。

ですので、職員が主体的に取り組み、「改革を推進する」と書いていますが、これはただ言葉のあやだと思えますけども、本当に「改革する」でいいような気はしています。より抜本的な。こういうことをやると生活も豊かになるというか、働きやすさもできるでしょうし、子育てのこともできるでしょうし、そんなことにつながるんじゃないかなとはちょっとと思っています。

あと、委員がおっしゃったとおり、民間、市民の視点からの協働というのは確かに抜けていたような気がします。

どちらかといったらこれは区の話なので、協働というのはオープンだよとか、区の人にもちゃんとウェルカムだよというのは、これからは、ちゃんと姿勢として見えたらいいのかなとは思っています。

あと、最後にストーリーの話ですけど、ICTがこれだけ取り沙汰されるというのは、たぶん今までの計画であまりなかったような気がします。ですので、今回は、これを機会にちょっと横に図か何かにして、ICTがあるとこういうふうになるよとか、そんな形で表現したら、より分かりやすいのかなとは思っています。

○部会長 そうですね。ICT。

ただ、これ第4部会の議論だけにとどまらないですね。ICTというツールが、様々な課題解決に寄与する、貢献するというのは。

○委員 そのとおりです。

ですから、ICTもしかり、これからのビジョンしかり、図か何かにしたほうが分かりやすいのかなとは思っています。

○部会長 では、ご検討いただいて、うまく図式化できるかどうか分かりませんが。

委員、どうぞお願いします。

○委員 C欄を見ていると、区からの働きかけが中心に書かれていて、例えば60、65を過ぎた定年を迎えた人たちが、地域にどうやって貢献するか、呼び込んでいくか。

呼び込んでいくというよりも、会社をリタイアされた人たちが、地域にどうやって貢献する志を持たせるかというようなところなんかも、逆の、反対面からどうやって駆り立てていくかというのが、やはり必要ではないかなと思いますし、それは高齢者の方だけでは

なくて、小学生や中学生が、どのように地域とコミュニティをもって貢献をしていくかということも含めて、区ではなくて、区民の側が意識を駆り立てるという仕組みづくりというのが、やはり必要じゃないかなと思いますね。

○部会長 先ほどの委員のご指摘と共通するご指摘ですよ。ですから、そこが確かに抜けているので、区民の側から立った表現の仕方、区民に意識を持ってもらい、積極的に関わっていただけるような工夫をしていくという話を、現状と課題、そしてこのB欄、C欄、いずれにも書けるかと思えますけれども、そういうのも盛り込んでいただくように事務局に、検討をお願いいたします。

それから、先ほどの地域の課題解決で、「改革を推進する」じゃなくて「改革する」という表現してくださいと。ここは、それでよろしいでしょうか。

ほかは、いかがですか。

どうぞ、お願いします。

○副部会長 そうすると、キーワードとしては、行政のところにも書いてあったんですけど、対等とか対称とか、要は上から目線で今までやっていたし、基本的にはワンウェイで考えていたというのを、バイディレクション、双方向に、かつ同じ目線でというメッセージかなと思いますけどね。

○部会長 協働って本来そういうものなんですけれども、ですから協働の概念自体が、やはり正確に区の側でも共通認識として、そもそも持たれているのかという、前回もそういう議論がありましたけれども。

ですから、その概念まで改めてここで表現するかどうかですね。ストーリーにつながる話ですけど。

○副部会長 例えばICTでよく言われているのは、オープンデータ化という話は、自治体が持っているデータというのは、そもそも公共のものなので、皆さん自由にお使いくださいと。「使いたいんですけど・・・」と言って申し込まれて、ありがたくもらうというものじゃなくて、いつでもアクセスできますよというところに変えますよというのは、すごく大きなポイント、伝える人にはちゃんと伝わるとは思いますけどね。

○部会長 それ以外のところで、何かございますか。

私から、協定のお話をここに、一番右の欄の真ん中のところですね。コミュニティ、ネットワークの一番最後の丸のところに書いていただいています。これは、従来の協定内容にとらわれずということで、内容は内容として、相手方と合意したことをしっかり互い

にやっていくということなので、内容はいいんですけども、協定という手法が非常にクローズドなので、そういう手法で果たしていいのかという問題意識だったんですよね。

ですから、むしろ協定という手法にとらわれずなのか、協定であっても、そこにまた後から参画したい人が、また自由に入ってくるとか、もしくは出て行くとかという変幻自在なんていう言葉も前回使ったかと思いますが、わりと柔軟に意欲のある人が参画しやすいような、そういった手法を検討するということですので、内容にとらわれずというよりは、むしろ手法にとらわれずというようにしていただいたほうがいいかと思います。

ほかはよろしいですか。大丈夫でしょうか。

( なし )

○部会長 それでは、一通りご意見いただきましたけれども、全体を通して改めて言い足りなかったこととか、お気づきになった点はございますでしょうか。

どうぞ、副部会長。

○副部会長 委員がおっしゃった、やはり職員の方にどういうメッセージを出すかというのが、とても重要なのかなという。もちろんこれは区民に対するメッセージなんですけど、実は自身の中での、これから担っていく職員の方々に、どういうメッセージを打つかというのちゃんと意識してやったほうがいいんじゃないかなと。そうしないと、委員がおっしゃったとおり、「また、仕事増えて嫌だよ、これ」となるわけですよね。たぶんね。今はそもそも興味ないし、そんなのどうしてやらされるんだよって、偉い先生が何か書いて、ふざけんなどというふうに思っているかもしれないですよね。

そうではないですよというのをどうするのか。そこの書きぶりもすごく重要だと思いますね。

○部会長 書きぶりなのか、伝え方なのかですけども。難しいところですね。

どうぞ、委員。お願いします。

○委員 会社なんかは、社内E Sって言いますよね。やはり、社員に評判の悪いのは、お客さんにも評判が悪いと思いますので、区民にも評判悪いというようにイコール置き換えてもいいんでしょうけど。

少し聞きたいのは、10年前の今の基本構想って、発表されたときに区の中とか、区民のから何か意見があったりしたんでしょうか。

○政策経営部長 基本構想自体は、実際つくった後に、その基本構想の進捗状況を数年にわたって区民参加で検証していこうと、当時はそういう試みをやっていたんですよね。

そういう若い人たちも含めていろんなご意見をいただきながら進めていったという面はありますが、委員が今おっしゃった、リアクションにつきましては、それなりの反応はあったと思うんですけど、具体的にどういった意見があったかというところ、調べてみないとこの場でお答えするのは難しいです。

○委員 区の人たちが、基本構想を発表して、しっかり見ていこうという部分。職員もそうですし、区民も基本構想が発表されて、どんなものかなと目を向けるような仕組みづくりという。

○政策経営部長 それは、実は私、最後に今のご議論を聞いていて、話をさせていただこうかなと思ったんですが、先ほど「稼ぐ力」についての議論があったと思いますけれども、言葉の鮮度や区民へのアピールという面で、基本構想の内容自体、23区や他の自治体と見比べてどうかという点。

本当に杉並区の基本構想というのは、杉並区の個性や実態をしっかりと投影した特徴のあるものになっているのか、どの自治体もおしなべて均質化しているきらいがあるんじゃないかと感じる時があります。

そうしたときに、区民へのアピールというところでいくと、これからの構想の中で取り組もうとするものをどう伝えていくかというところが、なかなか大きな課題になっていて、先ほどの「稼ぐ力」という言葉のように行政がこの間あまり使わなかった言い回しを意図的に使ったのは、我々行政にとってみると新鮮だったんですね。

それゆえ、区民へのアピールという点からすれば、そういう言葉の鮮度に拘泥するということは一つ大事なんだろうと受け止めています。

また、やはり時代の変化、行政としての危機感ですね。そういうとがった部分というところを出していてもいいんじゃないかなと思っています。

ですから、そういう点でいくと、区民へのアピールにもう少しフォーカスを当てて起草していけたらなど。これは事務局の希望といいますか、願望ですけれども。

○部会長 どうぞ。

○委員 おっしゃるとおりですね。だから今日少しお話ししようと思ったんですけど。

例えば10年前もそうですけど、基本構想をつくるじゃないですか。今回もつくるじゃないですか。基本構想をつくったということ、そもそも区民がまず、知っているかどうか。

知るかどうかというそのベーシックな部分で、そもそもこういうふうな計画が、基礎自治体にはあるんだということ、まず知る。言葉で言えば知ることができるかどうか、と

いうことが、やはり一つの課題だろうと思うんですよ。

ただ、今後、令和の時代になって、これだけ情報のツールが発達をして、あらゆるところに、情報が取れるようなこの現世においては、これは伝えなくてはいけないと思うんですね。それが行政の義務であるし、逆に生活者としてはそれを知らないといけないような環境をつくらなくてはいけないと思うんですよ。ということは、何があと必要なのかといったら、政策経営部長が少しお話しかけたところあるんですけども、今日、情報政策課長もいらっしゃるので、情報伝達というものに対する変容をやはりしっかりしなきゃいけないと思うんですよ。そこの議論というのは、ほかの部会でどれだけ出てくるか分かりませんが、しっかりと訴求をする。この基本構想をつくりましたよということが、例えば小学校レベル、区の小学校レベル等において、教科書にしろとは言わないんですが、オリンピック一つとっても、オリンピック教本を作っているぐらいなので、こういったものが、ある程度、子どもでも議論ができる、住民という肩書を持っている老若男女であれば、こういうICTに関してはこう考えていますよ、区民協働については、こう考えていますよと。

だから、言葉ももっとやわらかくしたりとかしつつ、訴求をするような、情報伝達の新たなガラガラポンといいますか、もう少し考えなくてはいけないんじゃないかと。

だから、たぶん従来と一緒にですよ。これ、議論して調整会議で、各部会とすり合わせをして、同じように文言を作文して、1冊の本にして配りますよね。関係各所に配る。だけど区民までやっぱりある程度訴求するかどうか。議員の先生は当然見ますけれども、その部分、もう少し議論を、我々の部会だけじゃないんですが、やはりしっかりやったほうがいいような気がしますね。これからの時代は特に。いろんな角度から、この情報に接することができるということを、しっかりと伝えて、あなたの生活にこれに関わってきますよというようなことも伝えないといけないんじゃないかなということが、実は、ベーシックな部分なんじゃないかなと思います。以上です。

○部会長 ありがとうございます。

出来上がったものについて訴求するというのもそうなんですけど、こういう議論を今していますよということを、本当は今、知っていただきたいんですけどね。そこは、やはり策定過程から関心を持って見ていっていただく。我が物として捉えていただくという、そこをしっかりと本来はやるべきで、その後は、おのずとついてくるというような、そういう感じで今後はやっていったほうがいいと思うんですけど、今回はもう間に合わないかもしれないですし、今からでも多少できることはあるのかもしれませんが。

どうぞ、委員、お願いします。

○委員 区民が関心を持つとすると、年齢があつたり、職域があつたり、地域があつたり。その中に自分を置いたときに、ぱらぱらとその基本構想の冊子を読んだときに、あ、これはいいねとか、そういうような感覚での、その見せ方というのかな。読む人が、どういふところで読むかというようなところを意識しないと。今の基本構想は立派なものですが、平坦に書かれているので、政策経営部長もおっしゃったようなとがった部分というのを見せてもいいのかなというような感じはしますね。

○部会長 どうぞ。

○副部会長 そうすると、あんまり構想に書かないのが普通なんですけど、とんがって書くとなると、僕だったら、「楽しい職員の区にします」と。楽しいの中に、本当の本質的なサービスなり協働をやるとか、時間を有効に使えるとかという、どんだんうちの職員になってくださいというような施策でいきまっせというのは、すごくいいんじゃないかなと思いますけどね。

○部会長 委員、どうぞ。

○委員 とてもいい意見ですね。「すぐやる課」とかあるじゃないですか。名前はばかばかしいですけど、前向きにするという意味もあるので、とてもいいのかなと思っています。情報の話もそうですけど、作る人と伝える人が同じである必要は全くなくて、行政の人が伝えたら伝わる内容と、民間の人が伝えたら伝わる内容といろいろあると思います。

ただ、委員がおっしゃったとおり、人に伝えるとか、区民に伝えるということは、もうしっかり、がつつりやったほうがよろしいと思います。

これは、ICTだからこれから皆オープンになるというのはもちろんですけど、杉並区は広報の力が非常に弱いと思います。ですから、それはしっかりやったほうがよろしいかなとは思っています。

ただ、稼ぐ力って私はわざわざ言いましたけれども、これも言う人も選んだほうがいいです。ホリエモンとか選んじゃ駄目です。すごく感じ悪くなると思います。

あと、全部のことは結構きれいにまとめていて、個性の話で言ったら、あと見せ方の話で言ったら、江東区でやったときは、会議の写真は絶対撮って、オープンに、外に、ウェブサイトに乗せたりとか、あとは委員のそれぞれの意見を書いて、何かいろいろ貼ってみたり、それは子育てのほうだったので、そういうふうにならざるを得なかったけれども、次の会議のときには、そんな写真を撮ったりとか、そんな小さなことでもやっていくのが一つ

よろしいんじゃないかなと思います。これは、最後写真撮りますか、皆で。

○部会長 最後じゃなくても、今こういう議論している様子をちょっと撮っていただくとかね。

○企画課長 今、出していただいた基本構想を、どのように区民の皆さんに訴求していくかというのは、前回のときにもかなり意見をいただいたと聞いていますし、我々としても取り組んでいかななくてはいけないことだと思っています。

ただ、その取組の内容とか、それを今の時代に合わせた形で幅広く、かつ、がっつりというようなお話もいただきましたので、そこはしっかりやっていくところだと思っていますし、実はフェイスブックですとか、ツイッターでの発信は、させていただいているところですが。毎回ではないですけども。一応そのエンゲージメントというか、反応自体は、ほかのものよりは若干よかったということは広報の担当からは聞いております。

ただ、そういうことをやっているから、我々が届けたい相手にしっかり伝わっているかどうかということとは別物ですし、そこは我々のやるべきことをやって、それでちゃんと伝わっているかどうかということをしっかり効果検証、効果測定もしなくては、ということも感じていますので、つくっただけで伝わらないということにならないように、いろいろ考えていかななくてはいけないということは、改めて感じたところです。

○部会長 それでは、ほかはいかがですか。

基本構想ができた後、どう訴求するかという話に移りましたけれども、まとめシートは、もう一通りご意見いただいて、これでよろしいでしょうか。追加のご意見はもうないということ。大丈夫ですか。

( なし )

○部会長 それでは、まとめシート、今日の追加のご意見をまた盛り込んでいただいたものを、私と副部会長で、まず確認をし、そして固めたものを委員の皆様にも情報共有すると。そういう流れですね。そのようにやらせていただきたいと思いますけれども、それでよろしいでしょうか。

( 了承 )

○部会長 ありがとうございます。では、そうさせていただきます。

ほかに、ご議論いただくべき点などございますか。事務局で何かございますか。政策経営部長、何かございましたらどうぞお願いします。

○政策経営部長 ありがとうございます。

資料のほうも漏れがあったり、また今日のご議論で改めて付け加えていかなければならぬ点が明確になったなと思います。痛いところも突いていただいたという面もありまして、先ほど管理職の昇進意欲の話も出てきましたけれども、杉並区の管理職の希望者は、ほかの区から比べると比較的少ないですね。実際、男性の昇進意欲が少ない所は、女性も昇進意欲が少ないということが言えるわけで、要因分析をきちんと行っていくことは大事だと思います。

女性の昇進意欲が乏しくて、なかなか受けたがらない。人事制度の問題なのか、処遇の問題なのか、あるいは子育て等の要因なのか、いろんな要因というのを探ってクリアしていかななくてはいけないのではないかとこのところが一つ。

女性の登用を高めていくためには、そうした文脈の中で考えたときに、男性も女性も含めて、モチベーションをいかに高めるかというところにフォーカスを当てていく必要があるのではないかとこのところが一つですね。

あと副部長から公会計のPDCAサイクルに関連したお話があって、これはもうおっしゃるとおりで、なかなか公会計の仕組みも、まだ途上と言えます。つくること自体が目的化してしまっただけで、これをどう活用するかというところが、これからの課題となっており、この辺が大きなやはりテーマだろうというふうに思っております。

それから、もう1点、私が印象に残ったのは、協働のところなんですけど、協働は前回協働の歴史も紐解きながら、杉並区の試行錯誤のお話もさせていただいたんですけども、制度をつくりながら、区役所の扉というものは、今日的に言うとなれば、徐々に開いて、かなり以前の町会、自治会中心だった時代からNPO法ができて、協働のいろんな仕組みをつくりながら、その都度その都度、扉の開く幅を広げてきましたが、それはそれで一面では行政都合と言えるわけです。

そうではなくて、欧米等で展開されているように、開いたままの区役所というのは本来あるべき姿であり。それが基礎自治体の本領を発揮するところなんだろうというふうには思っているんですけども、そのためには協働を通じてサービスの向上や、自分たちの仕事の改善につなげていく。そうしたことを職員が体感して、その上で、みんなでそれをどうつくっていくのかということ議論していくことが、今日的な課題だろうなというふうに思っております。

ですから、政策をつくっていくというときに、区民の方、特に普段声を上げない区民の方に、様々な識者の方も含めて、こちらがお声がけをするとご意見を言ってくれる方も

おりますから、そうした方も日常的に区役所に足を運んでいただけるような、その装置と申しますか、仕組みをつくっていく必要があるのかなと考えております。

参考まで、今月の15日号の広報すぎなみですね。区報ですね。区民センターの運営協議会の委員になられている方の紹介の記事でしたが、1人は立教大学の教授で定年退官された方が、声をかけられて、地域活動に足を突っ込んだと。

もう一人の方は学生の方ですかね、区民センターの運協の委員になって、やりがいを感じているというメッセージが載っていました。ぜひ、ご参加くださいと呼びかけておいででしたが、ああいう広報的な取組というのを続けていくということも大事なんだろうなというふうに改めて思います。

本当に、そうしたところで今日は資料チェックという議事でしたが、また新しい問題提起だとか、さらに付加していくべき点を幅広くご議論いただきまして、本当にありがとうございます。今日のご議論を改めて整理をさせていただいて、資料等に追加をさせていただきたいというふうに思っております。

それと、今後の展開でございますけれども、部会審議、一旦終結をしますけれども、調整部会については、2月の中旬ぐらいに第1回を開く予定でございまして、各部会から提出されたシートに基づいて、調整部会でどうそれを組み立てていくのかというところを議論し、その上で全体会のほうにつなげていくこととなります。調整部会も何回か開いて、起草案をつくっていきますけど、そういうプロセスについても適宜ご案内をさせていただきたいと思っております。

以上です。すみません。

○部会長 ありがとうございます。

では、最後に事務連絡などございますか。

お願いします。

○企画課長 本日、第4部会最終回ということで、私も少し寂しい思いもしております。もう少し皆さんの議論を聞かせていただきたいと思うぐらい、本当に充実したご議論をいただき、感謝申し上げます。

今、政策経営部長からも申し上げましたとおり、今後の審議スケジュールにつきましては、調整部会、2月中旬に行いまして、次の全体会につきましては、おおむね3月中旬頃を目途にということで、開催を予定してございます。当初のスケジュールから少し後ろ倒しになっておりますが、部会の議論が1月にまで及ぶ部会もございまして、その関係で若干

後ろにずれるようなスケジュールを改めてつくっているところです。

日程につきましては、3月中旬ということで、改めて全ての委員の方に日程調整のご連絡をさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。42名全員ということで開催できればベストですが、なるべく多くの委員の方が参加できる日程で調整をしていきたいと思っております。

それから、もう1点、全体会の場で私から区民意見の聴取、できる限りこれからもやっていきますということで、ご案内をしておりました。今日も、一部この議論の過程でいろんなご意見をいただければもっとよかったというようなご意見もいただきましたけれども、今後、年明けになりますけれども、これまで区民アンケートなどで意見を十分に把握できていない子どもですね、中学生に対するアンケート。また、在住外国人の方に対するアンケート。これを実施したいと思っております、現在、関係所管と調整中でございます。

また、我々は現基本構想の周知をこれまでもしてきたのですが、どうしても若者向けの周知というのが、一番認知度が低いというようなデータも持っておりますので、若者を対象にということで、ワークショップのような形式で感染防止対策は施した上で、おおむね18歳から25歳ぐらいの若者を対象に、区民懇談会を3月に実施するため、これも今準備中でございます。その場では、若者に対してどのようにすれば基本構想が伝わっていくんだろうか、あるいは伝わりやすい表現とか、分かりやすい言葉とか、そういったことの若者の率直な意見を聞くということで、開催準備をしているところです。

アンケートや懇談会で出た意見などについては、当然審議会にフィードバックさせていただきたいと思っておりますし、起草、また答申案を最終確定していく中で、その意見を参考にさせていただけるように取りまとめていきたいと思っておりますので、その結果をお待ちいただければと思います。

事務連絡としては、以上でございます。本当にありがとうございます。

○部会長 ありがとうございます。

それでは、本日の審議会の議事、全て終了いたしました。4回にわたっての部会の審議、非常に貴重な、活発な建設的なご意見、たくさん頂戴いたしまして、どうもありがとうございました。心より感謝申し上げます。

それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。